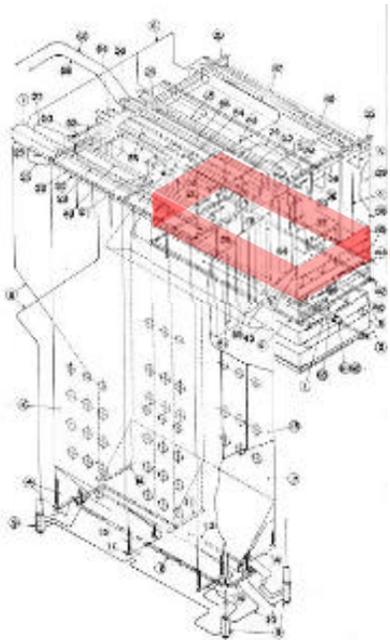


効率化の取り組み事例

事例② ボイラー深層部管の検査手法の開発・実用化

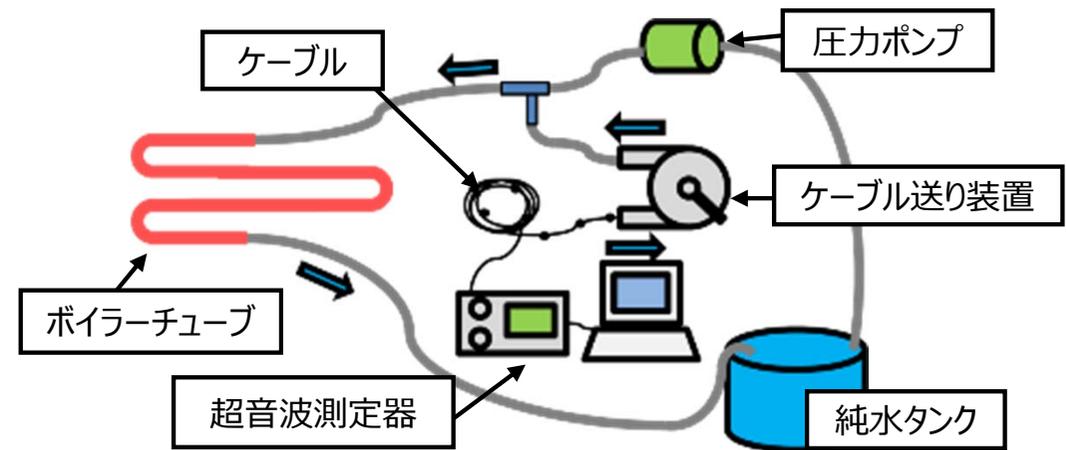
- ・ 火力発電所のボイラー深層部にある管の肉厚検査には多額の費用を要していました。
 - ・ 2014年度より道内企業と協力して管内部から肉厚測定を行う検査技術の開発に取り組み、実用化によりコスト低減を実現し、また緊急時にも柔軟な対応が可能になりました。
- 【効率化成果：検査費用を従来の2/3程度に低減】

<ボイラー深層部管>



管の磨耗状況などを定期的に検査する必要があり、これまで多額の費用を要していました。

<インナーUT※検査装置概略図>



※ UT : Ultrasonic Testing(超音波探傷)

ボイラーチューブにケーブルを送り込むことで、管の内部から検査が可能になります。